

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793000015		
法人名	医療法人 正志会		
事業所名	グループホーム ひりゆう		
所在地	大阪市東淀川区大道南1-4-13		
自己評価作成日	平成28年8月20日	評価結果市町村受理日	平成28年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成28年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①医療面でのケアが可能で、透析患者やインスリン注射・胃ろうの方の入居もできる。 ②同じ建物内にクリニックが併設しており、診察が必要な方はすぐに対応していただける。 ③終身であり、要介護度によっての受け入れ拒否や退所はない。 ④同法人の施設との協力体制が整っており、行事も一緒にやっている。 ⑤定期的に認知症のケアや介護技術の勉強会を行っている。 ⑥地域行事などへの外出機会を増やし、地域交流に向けての取り組みを行っている。 ⑦入居者一人ひとりに寄り添い、出来るだけ外出の機会を設けている。 ⑧淀川の河川敷の近くで、建物の前は公園があり、夜も静かで環境がとても良い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体の医療法人正志会は、泌尿器科医として、医療に、また高齢者介護事業に、地域に大きく貢献している。当事業所は、高齢者介護事業の一つとして、平成20年11月に設立した。この事業所の特色は、経営の母体が医療法人で、施設長が看護師であることである。施設長は一日一度は利用者と対話をして、健康状態を確認している。医師とも24時間オンコール体制にあり健康が担保されている。研修の年次計画の取組み方も素晴らしい。一年の内、一度は職員が研修科目の講師を務めるのである。職員の離職の殆ど無いのも、この事業所の自慢の一つである。非常に風通しが良く、月一度の会議でも皆が言いたいことの言える雰囲気だそうである。職員の一人は「私には、父がいますが、介護を必要としたときには、この施設に入れようと思います。」と胸を張る。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎日、朝の申し送り時やミーティング等で、職員同士が意見の交換を行なっている。 ・週に一度、利用者に希望を聞きながら献立を考え、一緒に買い物に出掛けている。	事業所独自の理念を作りあげ事務所やリビングルームに掲示し、毎朝の申し送りや毎月の会議時に、その理念を確認しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・利用者全員が町会へ加入し、祭や敬老会等、季節ごとの地域行事に参加している。 ・ふれあい喫茶を楽しみにされている。 ・散歩で近くの公園に出掛けている。	利用者全員が町内会に加入し、あらゆる地域の行事に参加し楽しんでいる。また一方で、事業所の管理者や職員は、地域で隔月に開催されているオレンジカフェで介護相談に応じるなど、双方向での交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・老人会等、地域の方々からの要望を取り入れ、毎年秋にイベントを開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2カ月に1回開催しており、利用者の生活状況や近況報告について報告し、助言や意見を頂いている。 ・出来るだけ利用者や家族に参加して頂けるよう声掛けを行なっている。	利用者および家族、町会長、婦人部、老人会、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加して隔月に開催している。会議ではサービスの取り組み状況の報告だけでなく、災害対策等の意見や提案を受け、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市町村に連絡を取りケアサービスについての助言を頂いている。 ・区役所に出向き、入居者のサービス提供に生かせるような情報を受けている。	区役所保健福祉課の各担当グループ窓口とは、都度訪問をしながら連携を持ち、情報交換を行っている。また事業所の取り組み等の相談や指導も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・定期的に身体拘束の研修を行い、日々の支援に活かせるよう心掛けている。 ・玄関の施錠については、出来る範囲で施錠をしない方針である。	全ての職員が身体拘束をする事によって与える身体的精神的苦痛を理解し、定期的に研修会を行いながら玄関の開放も含めて、拘束のないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・定期的に虐待防止の、研修行なっている。 ・利用者への言葉かけ等で、職員同士で気になった事は、お互いに注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに職員全員が学べる機会を設けている。 法人の弁護士や司法書士に相談しながら、成年後見制度の活用を行なっている。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> 重要事項説明書に記載している内容について詳しく説明している。 面談で入居者や家族に不安や疑問点を尋ね、説明を行なっている。 相談しやすいよう声掛けを行なっている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 入口付近に意見箱を設置しており、入居時に苦情窓口の説明も行っている。 家族面会時に、意見や要望が聞けるよう心掛けている。 	運営推進会議の他に、利用者には平素の会話の中から、家族等とは来訪時に、意見や要望を聞き出すようにしている。玄関に意見箱も設置し、出た意見を運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 月に1度ミーティングを行っている。 管理者が年に2回、職員の個人面談を行い、意見を聞いている。必要があれば施設長との面談も行なっている。 	管理者は、毎月の会議や個人面談等で運営に関する意見や介護技術等の提案する機会を設け、運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 年に2回、職員が自己評価を行ない、管理者との面談を行っている。 福利厚生が充実しており、職員同士の親睦も深めている。 有給休暇が取りやすい環境に努めている。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り職員に応じた研修を受けることができる。希望者は研修に参加できるように配慮している。 同法人の医療スタッフが行う、医療についての研修に参加している。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> グループホーム連絡会で他施設との情報交換や研修会を行っている。また、連絡を取り合い、施設の訪問を行なっている。 全国認知症グループホーム協会へ加入している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前には施設内の見学と面談を行い、利用者の不安な気持ちを傾聴している。 ・希望者には体験入所を実施し、安心して入居して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の話を傾聴し、その方の気持ちになって、その状況に応じた対応が行えるように努めている。 ・納得して頂けるよう、必要があれば何度も繰り返し話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・面談時に本人と家族との話し合いを行ない、希望を考慮し必要があれば、他施設への申し込みも支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者の出来る事を見つけ出し、ご自分で頂いて頂いている。また、出来ない事に関しては職員と一緒にいる。 ・利用者一人一人の趣味等と一緒に出来るような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・定期的に会議の機会を設けている。また、面会時は、職員も一緒に会話が出来るように心掛けている。 ・利用者に何か変化があった場合は速やかに家族に連絡し、相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族に相談しながら、家族との外出が出来るよう支援している。 ・声掛けを行ないながら、友人等が面会しやすい環境を心掛けている。	利用者本人と地域社会との継続を維持していくために、親戚の家を訪問したり、お墓参りなど、馴染みの人や場所への訪問を家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士が楽しみながら暮らしていけるように、職員が間に入り支援している。 ・利用者同士の会話が弾むよう食事の席等も配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・他施設や病院へ移る際は、移る先の関係者に詳しい情報を伝えている。 ・退所後も家族からの相談を受けている。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・センター方式を使う等、職員全員で利用者の希望や思いの把握に努めている。 ・自己発言出来ない入居者は、家族や職員と話し合いながら、少しでもその方の想いに近づけるよう心掛けている。 	利用者本人がどのように暮らしたいか、一人ひとりの希望や意向は毎日の関わりの中で生活歴、家族の意見を参考にしながら、食事の希望や趣味等を聞き出し、出来るだけ意向に添った支援をするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の協力を得ながら、情報シートを作成し情報把握に努めている。 ・これまでの情報が得られるよう、担当のケアマネと連絡を取りながら情報を把握に努めている。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が発見した利用者の出来る力を職員同士で共有できるよう努めている。 ・血圧表、水分摂取表、排泄チェック表等を記入することにより、心身状態の把握に努めている。 		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の気づきや意見、アイデアを出すことが出来るよう会議を行なっている。 ・利用者や家族の希望も考慮しながら、現状に即したケアプランの立て直しを行っている。 	長期計画を12ヶ月短期計画を6ヶ月としているが、利用者本人や家族・後見人等との日頃の関わりの中から意見・要望を聞き出し、観察・記録や関係者等との会議を繰り返しながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤時に職員は個人ファイルに目を通し情報を共有している。 ・申し送りで利用者の変化を詳しく伝え、また申し送りノートの記入も行い共有している。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と相談し、その方が必要とするサービスを受ける事が出来る環境を整えている。 ・同法人の他施設や医療スタッフとの連携を密に取り、情報交換や相談、援助を行っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の飲食店や理髪店等を利用し、地域の方との交流を図っている。 ・地域のコーラス隊や個人のボランティアの利用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医への受診継続については希望を聞き必要に応じて受診介助を行っている。 ・一週間に一度、主治医の往診があり、必要時は家族へ報告している。	利用者本人や家族等が希望するかかりつけ医になっている。基本的には家族等が同行受診するようになっているが、不可能なときには職員が同行する。施設長が看護師で利用者とは日々関わり熟知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・法人のクリニックの医師・看護師との連携を密に取り、常に相談している。体調不良時等は適切な指示を受けられる。 ・看護連絡ノートも活用し利用者の情報を交換している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入居者が入院した際は、家族や病院関係者との連絡を取り情報交換を行っている。 ・介護サマリーを活用している。 ・退院時は担当の医師や看護師との面談を行い、退院後のケアについての指示も受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に施設の方針を説明している。 ・医療ケア管理シートを作成して、入居時に話し合い、段階的にもその都度利用者、家族と面談し話し合っている。 ・定期的に職員の研修を行い終末期についての理解や意識の統一を図っている。	重度化した場合の終末期ケアの在り方について、事業所としての指針を定め、対応する最大の支援方法を本人や家族等と相談・共有し、定期的に再確認し24時間のオンコール体制を取りながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救命講習を受講し、避難訓練を行っている。また、マニュアルを参考に、定期的に研修もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に避難訓練を行っている。 ・夜間体制の避難訓練を行ない、他職員の応援体制も話し合っている。 ・運営推進会議で災害時の避難についても話し合っている	災害時における避難訓練や消防訓練を、夜間を想定した訓練も含めて、年に2回行っている。いざという時のために色々な想定をしたシミュレーション訓練を毎月行っている。しかし、地域の方々に協力依頼はしているが、訓練や役割分担はまだ出来ていない。	地域の方々に避難している利用者の見守り等具体的な役割分担を依頼した上で、夜間想定避難訓練をされる事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者への言葉遣いには気を配り、接遇の研修を行っている。 ・職場内では職員同士の言葉遣いに気を付け、お互い感謝の言葉を忘れず対応している。 	食事介助やトイレ誘導などにおいて、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応が見られた。個人情報も事務所の書庫に保管されている。年間研修計画の中でも重要課題として職員が講師となり取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、利用者に寄り添い思いや希望が表出できるよう働きかけている。 ・意思表示できない方は、日々のケアの中で表情の変化を観察し、出来る範囲で寄り添いが出来るよう心掛けている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかってもその方が出来る事や、好きな事ができるよう支援している。 ・起床時間や入浴等、その方の希望を配慮している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ服等はご自身で選んでいただき、本人の好みに配慮している。 ・女性は、特にお化粧品等の希望が有れば職員が購入している。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週日曜日にはメニューを一緒に考え、出来る事は手伝って頂いている。 ・食事の盛り付けや、片付を手伝って頂いている。 	食材会社の提供する食材ではあるが、調理、盛り付け、食事、後片づけも利用者と共に家庭的な雰囲気の中で行われている。週に一度、日曜日は利用者の希望を聞きながらメニューを決め、買い物、調理を一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事、水分摂取量は個人記録に記入し管理している。 ・体重の管理を行ない、医師に報告している。体重の増減がある方については、医師の指示に従っている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・起床時や食後、一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行っている。 ・必要があれば歯科往診で医師の指導も受けている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表を記入し、個人の排泄パターンを把握しながら、定期的にトイレ誘導、オムツ交換を行っている。 ・オムツの使用についても、その都度職員同士で話し合っている。 	<p>利用者の排泄パターンやサインを職員は把握して、あからさまな誘導ではなく、さりげなく誘導をし、一人ひとりに合った希望に添った支援がされている。サイクルの把握で、オムツから自立した例がある。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・水分補給をまめに行っている。また、毎日無理のない程度に軽い運動を行っている。 ・便秘時には医師の指示の元、排便コントロールを行い、改善に努めている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の体調や希望に添えるように、時間や回数を考慮している。 ・失禁や発汗時は必要に応じてその都度入浴している。 	<p>入浴は週3回を目途として、要望により薬湯にしたり季節の湯など柔軟な対応をしている。入浴拒否の利用者への対応は職員を変えたり時間を変えるなど工夫をしている。利用者の生活習慣に合わせた入浴が楽しめるよう個々に添った支援をしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握して、必要な休息や睡眠が取れるように支援している。 ・不眠状態の利用者に関しては、医師に相談している。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬時は声を出してチェックを行い、誤薬を防いでいる。 ・職員は服用している薬についての理解に努め、服薬の変更時は申し送り、申し送りノートと個人介護記録にも記入している。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の出来る事を役割として頂き、楽しみを持って頂いている。 ・一人ひとりの喜びや楽しみ事を引き出し、支援できる環境を整え、外出を行っている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・順番に散歩に出かけ、気分転換を図っている。地域の行事にも参加している。 ・季節を感じるための外出レクを企画している。 ・家族の協力で、お墓参り等の外出をされている。 	<p>利用者のその日の希望に添って、事業所の周辺を散歩したり、事業所前の公園や畑を散歩したりしている。時には、天六商店街の今昔館や城北公園などにも出掛けている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・希望される方は、家族の了解のもと個人で財布を持ち、お金を所持されている。 ・買い物希望された時は、職員が付き添い出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望されるときは、電話の介助を行っている。 ・年賀状や絵葉書の交換をされている方もおられ、職員が住所の記入等支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングは季節を感じられるような切り絵や飾り付けをし、棚には人形やぬいぐるみ、本等を並べ、入居者がいつでも、触れるようにしている。 ・テレビの前にはソファを配置し、入居者が自然に集まる空間となっている。	ゆったりした明るいダイニング兼リビングルームでは利用者それぞれがテレビを見たり、仲間同士が話し合ったりしてくつろいでいる。壁には利用者の描いた絵画や協働で作った季節の展示物があるなど、生活感に溢れ居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングで気の合った利用者同士と一緒に過ごせる空間を工夫している。 ・午後からは居室で一人で過ごして頂ける時間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室はなるべく自宅で使っていた家具等を持ってきていただくようお願いしている。 ・馴染みの物を置き、安心して過ごして頂けるよう心掛けている。	それぞれの居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、その人らしく居心地良く過ごせるための工夫が見られる。家から持ち込んだ掃除機があり自身で部屋の掃除をしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手すりが多く設置されており、転倒を防止し安全に暮らせるように工夫している。 ・トイレや各居室の入り口には、分かるように飾り等をして工夫している。		